

第2回(仮称)彦根市新市民体育センター建築設計検討委員会



日時 : 平成 29 年 5 月 22 日 (月)

10 : 00~12:00

場所 : 彦根市役所 5 階

第 3 委員会室

出席者 : 別紙のとおり

《議事》

基本設計について

《委員からの意見》

委員長 : 利用実績は、規模を決める根拠となるので、丁寧に数値を見ていかなければ、今後 10 年、20 年後にどういう実態が発生するかということは予測できない。立地適正化計画を策定する中で、公共施設の適正配置を検討するうえでは、利用されている方の年齢区分を大事にする。こういった年代の方が利用されているのか資料をお願いしたい。他いかがか。

委員 : 資料 3 で利用状況を示されているが、結論として、どの部屋、どの用途が手狭、もしくは広すぎるのか。現状から出てきている課題や今後反映すべき点がどこにあるのか。

滋賀県立大学金子研究室には、要求面積や規模など、今回のプロポーザルと同じような条件を示したのか。

唯一異なるのは、まちなか交流センターの配置であり、どういう風に考えて擦り合わせるのか。特に大事なのは、周辺環境、近隣環境に対してどうなのかということと、内部と外部の動線、管理の問題とコスト、そういう観点からどちらにもっていくのか。配置については、弓道場の位置が違うけれども、その整理も教えていただきたい。

委員長 : 利用実態について各代表者から直接伺ってみたいと思うが、どうか。

委員 : 体育センターの平日日中の会議室利用が極めて少なく、おそらく燦ぱれすの方が平日日中の会議室の利用が多いのではないか。体育センターの会議室は大会を開催する際の役員の控室や本部室として使うことが多いが、その用途

については、本部室等で補うことができると考えられるので、シェアできる部分はシェアしてはどうか。そのためには、両方で行っている各種講座の利用方法などの分析が必要ではないか。

もう1点は交流施設との位置関係であるが、プロポーザルの案をベースに、体育と燦ぱれすの交流をより意識した施設のあり様があってもよいのではないか。

委員長： トレーニング室の利用実績についてコメントをいただければ。

委員： 個人利用が増えてきており、利用者からは、新しい体育センターでは、もう少し充実したフリーウエイトの設備を整備してもらいたいという意見を多くいただいている。

委員長： 燦ぱれすと体育センターの両方で行われている体育教室を融合することや、あわせてこのトレーニング室を有効活用することで、健康長寿の実現に寄与する可能性が高いということ。燦ぱれすの方はどうか。

委員： この計画は、文化系の施設として若干弱いのではないか。また、現状の燦ぱれすの実態、実績、今抱えている問題点についても踏まえた上で今回の計画を作らないといけない。

市民体育センターでは会議室の利用が少ないことから、新しい施設の会議室数を押さえると、文化教室と調整が付きにくく、バッティングするのではないか。

前日も申し上げたが、駐車場がやはり何度も溢れるので500台ほどのスペースが必要ではないか。

それと、美術や芸術や工芸などの活動をするにあたり、用具や手を洗う洗い場や用具を入れる倉庫も必要である。

形は、使いやすい矩形である方が良いと思う。

委員長： 部屋の配置は利用人数によって、大きな会議室とするのか小さな会議室を2つ用意するのか異なる。また駐車場は、実際の駐車実態を調べる必要がある。大事なことで、自動車保有台数は現在減少に転じている。駐車場利用が増えるとは思にくい。乗り合いで来ていただいて駐車場利用台数を減らすことをルールにするなど検討が必要。

委員： 話を伺っていると、体育センターとまちなか交流施設の融合がポイントで、配置計画に関わる。融合することによって規模を縮小することになるのか。それぞれの現状は確保しながら、より良い使い方をしようとしているのか。

事務局： やはりそれぞれの長所を生かしながら、融合できるところは融合していただきたいと考えている。

委員長： 一緒になることによって共同利用できる効果は高めたい。駐車場などスペースを節約できるものであればそうしたい。というのはこうした公共施設を作

る場合、市役所が作る、市長が作るという誤解を受けるが、基本的には市民、納税者のみなさんのお金で作るわけであり、これが本当に必要なんだということ、作る必要があるということを証明に証明を重ねていかねばならない。我々は市長に命じられて検討している立場なので、納税者のみなさんに胸をはって、この施設は必要だということを議論していきたいので、協力をお願いする。

委員：動線において、地元の方は自転車で来られる方が結構あると思うが、駐輪場は考えておられるのか。

事務局：敷地内の動線計画において、配置していきたいと考えている。駐輪場は、今後、反映させたものを資料として提示したい。

委員長：個人的にはC案がいいと思うが、駐車場については緑地計画を立てたほうがよい。駐車場は暑い時期の熱中症などが心配である。できるだけ緑を多く配置し、木陰を歩いて来ることができるような形で検討したほうがよい。

委員：もとよりプロポーザルの石本建築事務所の案がよいと思っていた。ただ、分棟にするデメリットはあり、施設の管理の問題や、融合性、一体利用の問題、近隣との話、コストの問題などをおしてもこれが良いという点、魅力的だといってもらえるとよい。決して否定しているものではなく、個人的にはC案がいいと思っているのだが、設計者として強い思いや主張があれば納得できる。

委員長：そもそもC案の良さを、建築計画だけで説明するには無理があるのではないか。市民体育センターとひこね燦ぱれすが一体となることによっていいことは何か。例えば、両方で行っている体育教室が一体的に運営できるのであればメリットであるし、トレーニングルームがあることで、教室が開かれていないときでも利用ができ、健康寿命を延ばすことになる。だから、デイサービス等を増やして高齢化時代に対応していこうとしている中で、彦根市では新しい拠点を中心に健康寿命を延ばすことができる。そこに当然、もてなす場がある。絵、陶芸、書道などの活動が有り、その文化を勤しむ方と体育で足腰を鍛えるという方が一体となって過ごせるような健康的な街、彦根市にしようということを高らかと謳い、そのためには、このプロムナードが必要で、このプロムナードでこうしたプログラムがあって、人が集えるというストーリーがあって良い。

委員：近隣との関係にしても、B案や元々の基本計画案は、住宅地への配慮でそこから離そうとしているが、逆に公園越しに住宅が丸見えになる状態となるから、むしろ両側に構えたほうが、人の流れに対しては目隠しになるとも考える。そういうことも含めて、分棟一体案がすごく魅力的であるというところを是非強調していただきたい。

委員長： 強調し、かつご利用になる一般市民のみなさんが共有できるような問題意識でないと良い施設にはならない。

委員： 喫茶室を作るだけでは融合したことにならないのではないかと。

委員長： ましてや、運営がとても難しく、民間業者の営業が成り立つほどお客さんはほとんどないだろう。南彦根駅周辺でこういった商業施設があるのか、喫茶店として民間が営業できない場合の対応も必要になる。

委員： 災害時に役立つ要素や、水道等が使えなくなった時の関連問題など何か貢献できることがあれば併せて教えていただきたい。

委員長： 災害対策の説明をお願いします。

事務局： まず、災害対策についてお答えさせていただく。現在、市の防災計画は計画も見直されているところであり、関係各課と調整しながら検討している。

委員： 設計者からの意見もぜひ伺いたい。

コンサル： B 案は、エントランスホールを共有するという観点から、エントランスのリニューアルが大きくなっている。

C 案では、会議室の共用において、燦ぱれすや体育館が分け隔てなくスムーズに使っていただけるようなつながりといったものや、使い易さを向上するといったものであると考えている。

3 案において、管理動線という点では一体案のほうが使い易いという考え方もある。しかし一方では、利用実態にあるように、土曜・日曜などは、燦ぱれす機能であるまちなか交流棟のホール利用と体育館の大会利用等が多いので、休憩スペースとしてエントランスホールが使われると、混み合う。その場合、B 案の一体型では使い分けがしにくいのではないかと考えている。

委員長： 会議室を共用することで、燦ぱれす側もスペースを有効に使えるであろうということである。全体として面積はスリムに絞る方向ではあるが、できるだけ体育館側にも面的に広がりを持たせ、使い易い会議室を配置していくことが C 案での特徴であるとのことであった。

あと、ロビーの使い方も議論すべきだと思うのだが、草津市役所の近くの非常に立派な文化施設では、ロビーを使ってロビーコンサートを頻繁にやっている。大津市ではラフォルジュルネというワンコインで参加できる小さなコンサートが広がっている。そうした活動の発表の場としても大切であり、交流する場所にも必要となるので、体育センターと一緒に使って使うような融合するような場になればと思う。

委員： 文化とスポーツが合築するなら、できるだけ効果的で有効なものができればよいという気持ちはある。駐車場も両方が一定量を確保できたらうまく使えるのではないかとこの思いも持っている。ただ、本当に使う部屋を確保したうえで、フリースペースやデザイン的なスペースを取り入れるというのが良

いと思っている。それと、私達が一番懸念しているのは、音、雑音である。ある程度分離した中で、かつ共用できるところは共用して、融合できるところは融合するというを基本に据えて考えていただきたい。

委員長： 兼ね合いというものが、地域としては静かに越したことはないのだろうが、賑わいが創出できる状況が一方では必要になる。人口減少が進む中で、周辺の住宅地にも空き家が増えてくる。その中で、この拠点がどういう役割を果たすのか。お一人暮らしのご高齢の方がここまでちょっと歩いてくると、子どもや若者がにぎやかにしているのが見え、そのスポーツをやっている状況をみながら季節を感じてもらえるような場所になると良い。地域に集う場所があり、それが地域社会を支えていくことになるので、どういう形で交流が出来るかということも幅広く考えていきたいと思う。

委員： せっかく作るのであれば、作品の発表や展示場スペースを作っていただきたい。彦根には市民レベルの作品展などの会場がなく、これを作ることで、文化とか体育施設にたくさんの人を誘引できるのではないか。ただ、会場が円形だと展示が非常にしづらく、矩形の建物だとよい。

委員： 喫茶コーナーの辺りにギャラリー展示スペースを配置するのもよい。見晴もよい。

委員： 喫茶コーナーは撤退後の利用も考え、ピクチャーレールぐらいは付けておく必要はあるのではないか。

委員： C 案の場合は、文化的施設が集約できておらず、場合によっては、中途半端になるのでは。文化関係は、ある程度まとめたほうが管理や運営がしやすいと思う。

委員長： 文化関係でも、音を出す音楽系と、静かにしたい美術や書道のような芸術系と両方使い分けるということは広がっているメリットである。

委員： アトリエとしての利用を考えた場合、日差し考慮するとC案がよいのでは。

委員： 理想はあるが、一応、建物の制約の中で運用にて対応する。

委員長： ただの会議室ではなく幅広い芸術活動に使える工夫が必要なのもかもしれない。展示はフリースペースで行うことも有る。大津市では、市民提案によって、石山線の電車の中で、沿線の高校の文化祭として作品を展示した。今ではちはやぶるのラッピング電車が走るなど、街中でアートを行っている。そうした形も含め交流施設のメリットが最大限に出るような場所を作っていきたいと思う。

委員： 興味のない人は全然興味がない。本当に絵の好きな人が集って観てもらえる場所が、市民がちょっとした芸術を発表できる場がないというのは寂しく思っている。120~150㎡ぐらいがおおよそ40~50作品ぐらい並べて、程よくグループ展ができるぐらいのスペースだと考えている。

委員長：市の内部委員にも話を伺う。

委員：皆様の意見を伺い、分棟型がいいのではないかと考えている。例えば、C案だと会議室等は使い勝手がどうかなと考えるので、四角で考えられないか。

委員：プロポーザルの経緯もあり、A案の配置を基本にし、いいところ取りとしたC案も十分有り得ると考える。ただ、費用対効果や、実務的な詳細については今後検討していく必要がある。

また、まちづくりの点からも、都市計画では南彦根駅前も一つの都市核として位置付けているので、まちなか交流の施設に、体育センター、燦ばれす双方の目的も尊重しながら、進めていく必要があると考えている。

委員：県内の体育館は駅から非常に遠いため、駅の近くにできるメリットは非常に大きいのではないかと感じている。会議室は、一つ一つ区切られているほうがよいのか、パーティションなどで区切ることで、大きなスペースを確保できるほうがよいのか、検討したほうがよい。

また、どこで上履きに履き替えるのかよく考えていかないといけない。

10年に一度開催されるような全国大会ではなく、日頃考えられる様々な大会などを想像し、たくさんの団体が一度にこの施設を利用した時に、どういうことが起こるのか整理する必要がある。

委員：分棟が良いという意見と、A案がプロポーザルで選ばれた趣旨を考えると、分棟の方が良いのではと考える。ただ、コストや、部屋が曲面の形をしているので、利用形態によっては、利用がしにくいということもある。そういった意見を踏まえながら、良いものを作っていきたいと考えている。

委員長：まとめになっているが、C案をたたき台として今後は検討を深める。今日いくつか検討する諸言が出ているが、何かあるか。

委員：ダンス室が矩形ではないので、有効に使える面積はどの程度か。一つの目的できっちりと有効に使えるのかというあたりについて、次回にでも考えを示していただきたいと思う。

委員長：今回は、これだけ曲面について意見が出ているので、詳細な平面計画を提示いただき、検討する必要があると思う。

委員：微妙にアールがかかっている会議室で大切な話はしづらく矩形を希望する。

委員：アールをつけたガラスはコストがかかる。そう言ったことも含めて、曲面のメリットを是非次回見せていただきたい。

委員長：そもそも歪な特殊な形をしている敷地に人を引き込むような空間として作っていきたくて考えているものだから奥へ奥へ引き込むような、また、広々とした空間となる体育館を親密感のあるような空間にしたいから、曲面を使うという設計者の意図はあると思うが、丁寧に検討していきたくて思う。そろそろ時間になったので、今申し上げた方向で議論のとりまとめとさせて

いただきたい。二つの施設が複合されることによるメリットを活かすためにも、C案に良い点があるということを確認させていただいた。コストや使い勝手の点はあるけれども、比較検討をし、更により良いものにしていくという結論。よろしいか。それでは、一通り意見をいただいたので、第2回の検討委員会を終了する。

以上